

お家で資源に！

岐阜県

六年 山本 実乃 さん
四年 山本 多未 さん



まずは、キッズ大賞受賞おめでとうございます。今回は、姉弟揃っての参加でしたが、このコンテストをどうやって知ったのですか。

お母さんがスマホを見てた時に、広げたいなものが出てきて、勧められました。参加すればホンダのポーチが貰えるって聞いて。(姉)

僕は、未来のこととかを考えたことが好きだったから、やりたいてって思いました。(弟)

お母さんに勧められて、やることになったわけですね。

ところで、このテーマは二人ですんなり決まったのですか。どちらからの提案だったのですか。

僕からです。総合で、地球温暖化とかゴミ問題についてやっていました。僕は、宇宙ゴミについて調べています。(弟)

私も、理科か社会で、最近ごみが増え続けて、もうすぐ埋め立てる場所がなくなるとを知って気になっていました。それに、お父さんが仕事の前にいつもゴミを出しているんですけど、大変そうだなと思って。(姉)

多未君の提案をきっかけに、二人の気になることが一致したわけですね。ところで、チャレンジシートには、「失敗したこともたくさんあったけど、楽しかった」とありました。失敗もあったのですか。口が開く仕組みを作った実乃さん、教えてください。

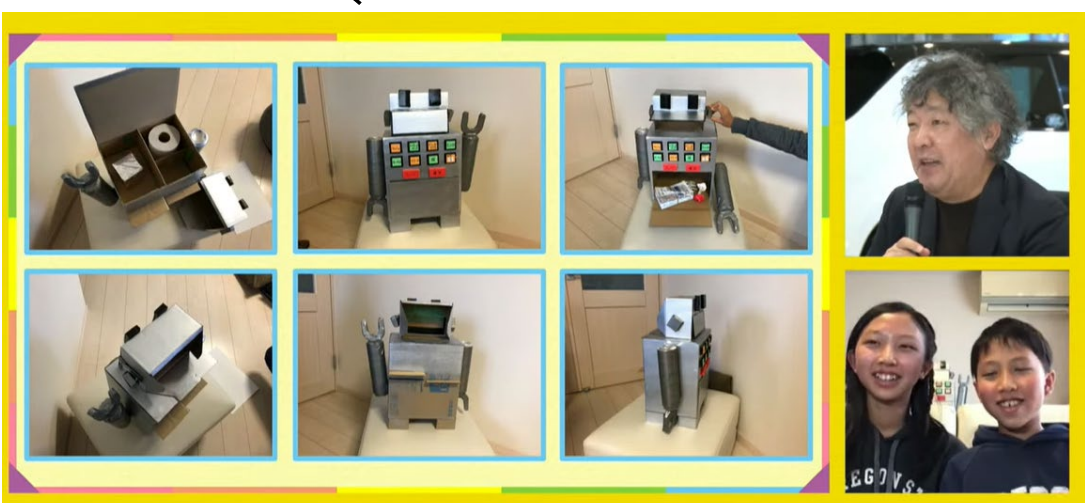
口は、上と下、両方にぽかっぴあくようにしたかったんですけど、開くことはできても、閉めることがなくて。だから、もう上にパカパカあくだけにしました。(姉)

腕が動く仕組みを作った多未君、教えてください。

僕は、中にある円が小さいと、この腕を何回も回さないといけないので、大きくする調整をしました。

その方法は、すぐに思い浮かんだのですか。

すぐに思いつかなかったけど、何回もやっていたら思い付きました。



何回も作り直して、途中で、もう止めたいとは、思いませんでしたか。

なりました。何回も。私が嫌って思う時は、多未がなんか乗り気で、頑張ろうよみたいな感じで言ってくれました。(姉)

素晴らしい兄弟ですね。普段はどうなのですか。

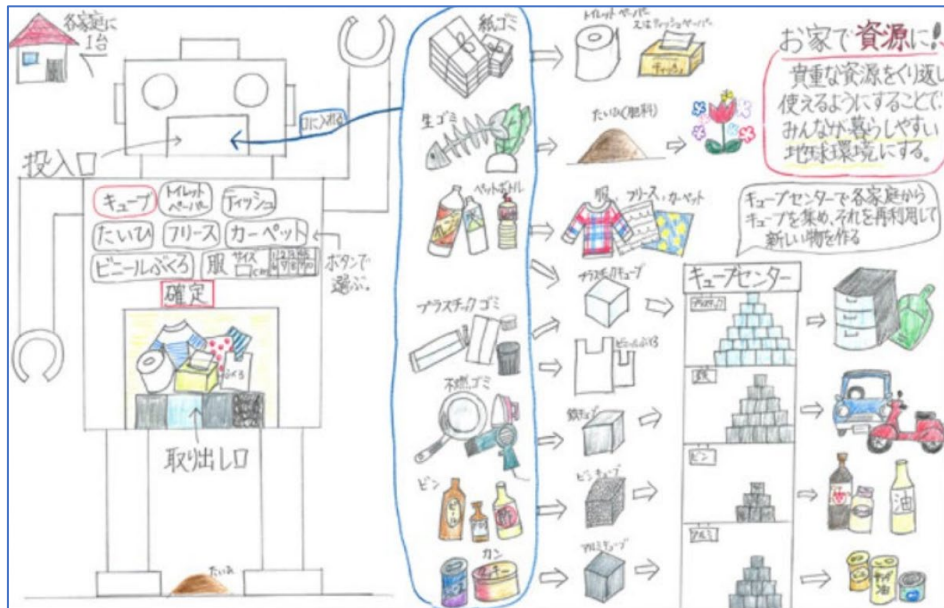
もう毎日、喧嘩です。(姉)

最後まで頑張れたのは、ポーチのおかげかな。(笑)

ポーチ？確かに。私は、一次審査を通過すると思っていなかったんです。だから、立体作品を作ったりプレゼンしたりすることを考えていなかったんです。正直、最初はやる気がなかったんですが、アイデアコンテストの人にこんな経験できる機会ないうって説得されて。(姉)

僕は最初から乗り気で、やりたくなって思っていました。(弟)

お姉ちゃんがくじけそうになったら、やる気のある多未君が頑張ろうって、励ましていたわけですね。逆だと思っていました。



ところで、多未君はくじけそうになったことはなかったんですか？

(弟) 工作が好きだから、やめたってあまり思いませんでした。

一つの作品を作らないといけな

いから、考えが食い違うこともあるじゃないですか。その時はどんなふうに調整したのですか。

なんか譲り合い？予定をいっばい入れてしまっていたために、時間が結構限られていました。

でも、その時間内に終わらせようという目標を立てて、協力しました。(姉)

譲れないところはなかったのですか。

ロボットの目が一番喧嘩になって。最初はこ丸にしようとしてたけれど、四角の方がなんかかわいいみたいになって。(姉)

どちらの意見が採用されたのですか。

多未の意見です。譲ったのもあるし、まあ確かにやってみると四角の方が良いところもあったので。(姉)

コラボをするために大事なことは譲るといことそして、譲った先に相手の考え方の良さが分かる

チャレンジシートには、「失敗したこともたくさんあったけど、アイディアがたくさん出てきて楽しかったです」と書いてありました。最終的には楽しかったですね。

はい、楽しかったです。(姉)(弟)

お姉さんから見て、今の多未君が、成長したなと感じるところはありますか。

やっぱり、譲り合ったりするところがこのコンテストで多かったんで、その分が成長したかなあと思います。(姉)

自分自身はどうですか。

自分ではあんまり変わってはないような気がするけど。(姉)

僕は、少し優しくなったかなと思います。(弟)

素晴らしいご兄弟ですね。本当にありがとうございます。

あとがき▼姉弟による参加は、大変珍しい▼さて、この二人を見ていて、喧嘩は、決して悪いことではないと感じさせられる▼自分の考えを持っていることを相手に共感してもらいたいと願うもの、それが叶わないときに起こる▼または、我を通したいときに起こる▼しかし、これにセツト化されるようになってきたこ

アドバイザーとしてのお母さんから

最初、応募用紙を二枚準備したのですが、多未はロボットが好きなので、「ロボットの絵は僕がかきたい」とか、お姉ちゃんが「私が意見をまとめて絵にしたい」とか、そういった役割分担を二人でしているのを見て、なんか二人でやってよかったなあと思いました。もちろん、二人でやらせたことで、喧嘩になりました。また、二人で考えたり、協力し合ったりする見られたことがよかったですね。こちらは、ヒヤヒヤしながらずっとドキドキしていましたが、子供たちは本当に楽しそうで、達成感が得られたようです。後に、やらせて良かったなと思

とが「譲る」ことである▼「譲る」ということは、自分の感情を我慢するということでもあろうが、同時に相手を尊重するということでもあろう▼「友達」が喧嘩を通して親も知るところとなると「親友」になるとい▼親の前で裸り広げられる日々の喧嘩は、きつと姉弟間の尊重の種まきになっていることであろう(YA)